

いこい

第0号

新年のごあいさつ



施設長
石橋 久夫

新年明けましておめでとうございます。老健「いこい」をご利用の皆様、そして地域を支えておられる大勢の皆様方のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

私たちが子供の頃は、新年というと、何か新たな年を迎えるということに希望がありました。お年玉をいただいていた好きな物が買えるという楽しみ以外に、戦後の厳しい貧困を乗り越えて、限りなく明



長和町「おたや祭り」の山車の一場面では、子年にちなんで『ねずみの嫁入り』が奉納されました。

子年

るい未来を夢見ていたように思います。そして、お正月という伝統行事の中で、おせち料理をいただきながら、百人一首や花札、トランプなどに皆で心から楽しく興じ、日本人としての文化をも十分に満喫していたように思います。年をとると、何か人情味あふれていたそういった昔が、とても懐かしく思い出されます。戦後60年が経過し、文明が進歩し、物は豊かになつたけれど、人の心は本当に豊かになつたと言えるのでしょうか。市場原理を中心とする競争社会の中で、人は少数の勝ち組と大多数の負け組に分かれ、自己中心的な価値観が蔓延し、人間性を失った凶悪な社会犯罪が増え続けています。日本の伝統文化であった、生かされていることに対する感謝の心や、共に生きるための優しさが失われ、人なぜか孤立や孤独への道へ追いやられて、生きていることの素晴らしさを見失っているように思えます。そして今まさに、そういった影響が現実の高齢化社会をも危うくしているのです。

国の高齢者政策や医療福祉政策も貧困です。道路を造るお金はあり余るほどあるにも関わらず、お年寄りの年金はわずかで、その乏しい年金の中から、介護保険料や国民健康保険料が天引きされ、高齢者が医療や介護を利用する際の自己負担金も増えています。お年寄りが老後を豊に生きるには、あまりにも過酷な高齢化社会と言わざるを得ません。地域のお年寄りに代わって、大いに愚痴をこぼしてみましたが、これでは解決になりません。もう一度、「感謝の心と優しさ」という、この国の伝統を思い起こし、人情味あふれる助け合いのもとで、支え合える依田窪文化を築かなくてはなりません。

老健「いこい」は、地域の要望に因るために、構成市町や組合議会並びに、関係各位の格別なるご高配により、短期入所と通所リハビリテーションの機能を拡充することとなりました。平成20年度当初には着工し、来年初頭に完成オープンを予定しております。

「いこい」の社会的使命は、心豊かな地域社会を実現するため、お年寄りを心から大切に、高齢者の尊厳と自立を支える素晴らしいケアを提供することです。職員一同、力を併せて使命達成に向けて誠心誠意取り組んでまいります。今後とも地域の皆様や、関係各位のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成20年1月
発行：依田窪老人保健施設
広報編集委員会
〒386-0603
小県郡長和町古町 3365-5
TEL：0268-68-0281
FAX：0268-68-0283

平成20年
依田窪老人保健施設
「いこい」のテーマ

『和の精神』

聖徳太子の言葉にある「和を持って尊しとなす。」に代表されるように、日本の伝統文化の根本にある「和」の精神を重んじ、「自分の責務を忠実に果たす。」「周囲の人に対する優しい配慮」をケアの中心に据えるとともに、ご利用者やご家族、そして地域の皆様との「和」を大切に、真の信頼関係の構築を図ってまいります。

各ユニットの目標

いこいでは、個別ケアの充実を図るための手段としてユニットケアを導入し、現在は、入所部門で二つのユニットと、通所の三つのユニットでケアを行っております。年始めに各ユニットの今年の目標をご紹介します。

Aユニット

○集団ケアではなく、利用者様一人一人に合ったケアを提供します。

○人との出会いに感謝し、幸せな時間が共有できるよう、夢を持って仕事に望みます。

Bユニット

○利用者様の心が安らぐよう、常に笑顔で接します。

○利用者様が目標を持ち、元気に生活できる環境づくりを進めます。

通所ユニット

○住み慣れた地域で、その人らしく生き生きと暮らしていけるよう、お手伝いします。

○利用者様の「思い」を大切にします。

○楽しかったと感じていただけるようなサービスを提供します。

委員会の紹介③ 「食事委員会」

昨年とは大違いの寒い日が続いております。いこいでも利用者の皆様がかげなどひかぬように、いろいろと工夫を凝らしています。そのなか、食事委員会では管理栄養士を中心として、栄養面での健康管理を中心に「安全で楽しい食事」「四季を感じられる食事」の提供を目標に、利用者の皆様に

家庭的な雰囲気の中で、毎日楽しく食事をしていたらという努力をしています。

私たちは普段、疑問をもたずに何気なく飲んだり食べたりしています。「口から食べる」ことは人間の根本的な要求のひとつですが、水や食べ物の飲み込みが困難になってしまうことを「嚥下障害」と言います。嚥下障害になると、栄養が十分に取れなくなり栄養失調を起したり誤嚥により肺炎等の呼吸器の病気にかかることもあります。食することで必要な栄養を摂ることは、病気の回復と健康維持に欠かせないものであると思います。いこいでは、そのような障害のある方でも、ゆつくりと口から食べていただけるケアを目指しております。

また、いこいでは、職員も一緒に利用者の皆様とテーブルを囲み、世間話や、昔の話、生活の知恵などをお聞きしながら、なごやかに食事をしております。

その世間話の中から、利用者様の好みを聞き出したり、嗜好調査を元に日々の献立や、四季折々の行事の献立を作成する等、利用者様にあつた食事形態を考え、取り組んでいます。これからも「食」の面から楽しい日々を送れるよう努力し支援してまいります。

(食事委員 森田京子)

ふれあい

年末大掃除 (12月9日実施)

今年も大掃除を、ボランティアのご協力をいただき実施しました。お陰様で、きれいになった施設で新年を迎えられました。ありがとうございました。

忘年会 (12月21日開催)

当日は、ボランティアの「タクトF」の皆様による美しい演奏と歌声に癒されました。昼食には、海鮮丼をはじめとしたご馳走に舌鼓をうち、大いに盛り上がるのができました。二〇〇八年はどんな年になるのでしょうか？みんな笑顔で忘年会を迎えられるいい年になればと思います。

ほっと通信 いこいのひととき

「通所リハビリテーションの特徴」

いこいの通所サービスは、介護サービスの中で「通所リハビリテーション」と称されているように、その特徴の1つ目は、専門職によるリハビリテーションが充実していることです。現在いこいには、理学療法士2.5人、作業療法士1人が配属されており、ご利用者の在宅生活の維持・向上のために、お一人お一人にリハビリを実施しております。お陰様で、このところ、リハビリを希望されるご利用者が増えてきております。

2つ目は、リハビリ以外にも、皆様に楽しんでいただけるよう、次のような取り組みも行っております。

- ★ **作業**：木目込み、皮細工、銅板細工など個人個人の機能にあつた作業を行っています。
- ★ **干し柿作り**：ご利用者様宅や地域の皆様からいただいた柿で、干し柿づくりをしています。見事な包丁さばきに、ただただ感心するばかり、お茶うけとしておいしくいただいております。
- ★ **ドライブ**：いつもと違う景色や季節感を体験していただこうと、年間を通じてドライブをしています。昨年秋には、生島足島神社や前山寺方面へ行ってきました。
- ★ **忘年会**：12月には、1年の感謝を込めて約1週間かけて忘年会を開いています。地域のボランティアさんにご協力いただきながら、楽しいひと時を過ごしました。
- ★ **セレクトメニュー**：食事では、1ヶ月に1度ご利用者様におかずを選んで召し上がっていただきます。その日を楽しみにされている方が大勢おられます。

仕上げは温泉でリラックス。いこいの大浴場は、長和町のご配慮により、やすらぎの湯と同じ源泉から引湯させていただいております。ご利用者様からは「体の芯から温まる。」と大変好評です。これからも、「いこいに行って元気になった。」と言っていただけるよう、職員一同サービスの向上に努めてまいりますので、大勢の皆様のご利用をお待ちしております。

(通所リハビリ主任介護員 桜井岸子)



忘年会で手話ダンスをご披露いただいた、サンフラワーズの皆様

長門小学校2年生との交流会

(12月19日)

長門小学校2年生皆さんに、合唱やピアノの演奏を披露いただきました。また、手製のカレンダーや首飾りをいただきました。ありがとうございました。



運動会 (10月21日開催)

玉入れ、大玉送り、借り物競争、パン食い競争等、ご家族や多くのボランティアの皆様にもご参加いただき、みんなでスポーツの秋を満喫しました。

★ 編集後記 ★
平成20年初めての「いこい」は、いかがだったでしょうか。今年も編集委員として、皆様に楽しみにしていただけるような、「いこい」を目指してまいりますので、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。(編集委員)